

2019年度 岡山大学大学院法務研究科  
法学既修者B日程 試験問題

## 刑事法系（刑法，刑事訴訟法）

<解答上の注意>

1. 問題冊子は，表紙を含め3枚である。
2. 問題には，問題1と問題2がある。配点は，問題1が60点，問題2が40点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は，問題1用と問題2用の2枚が配布されている。各問題ごとに解答用紙1枚を使って解答すること。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し，また試験科目欄に「刑事法系」と記入すること。なお，整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後，問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は，黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 六法は貸与品なので，折り曲げや書込みをしないこと。なお，書込み・汚損等がある場合は申し出ること。
8. 試験終了後，解答用紙と貸与した六法を回収するので，指示があるまで席を立たないこと。
9. その他は，すべて監督者の指示に従うこと。

**【問題 1】** 次の各設問に答えなさい。解答用紙の冒頭に「問題 1」と記入すること（解答順序は問わないが、設問番号を記入すること。また、2問とも解答すること。）。

〔設 問〕 1

Xは、甲から鉄の棒で頭部を1回殴られ、甲がさらにその棒で頭部を殴ってこようとしたため、甲のこのような態度に腹を立て、甲の顔面を1回拳骨で殴った。その結果、甲は、顔面に全治3日程度の皮下出血の傷害を負った。これにより、Xは、甲から更なる攻撃を受けなくなった。

Xの罪責を論じなさい（特別法違反の罪を除く）。

〔設 問〕 2

骨董品店を営むYは、時価10万円相当の壺がなかなか売れずに困っていたので、客の乙に対し、「この壺は本当は時価100万円です。」と嘘を告げるとともに、「あなたのような造詣がある方なら10万円で売ります。」と述べ、乙にその嘘の話信じさせた。その結果、乙はYからその壺を代金10万円で買うことにした。そして、Yは乙から代金10万円を受け取るとともに、その壺を乙に渡した。

Yの罪責を論じなさい（特別法違反の罪を除く）。

**《問題1 以上》**

**《次頁に続く》**

**【問題2】 次の事例を読み、後記設問に答えなさい。解答は、【問題1】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き、冒頭に「問題2」と記入すること。**

**【事 例】**

- 1 深夜、貴金属店のショウウィンドウを破壊して店舗内に侵入し貴金属を窃取するという手口の連続窃盗等事件を捜査していた警察官Pらは、犯人を特定すべく捜査していたところ、ある日の午前1時頃、貴金属店「甲」において同様の手口の窃盗事件が発生した。同店内に設置された防犯カメラの事件当時の映像には、「乙社」の社名が書かれた重機とそれを操縦していた犯人の姿が映っていたものの、映像が不鮮明でその顔までは判別できなかった。後に同重機の所有者を調べると、建設会社「乙社」のものであった。
- 2 警察官Pは、この重機の夜間の使用状況と犯人について明らかにするため、「甲」での事件の3日後の午後10時から翌日午前6時までの間、乙社の敷地内の様子をビデオカメラで撮影することにした。乙社敷地内には、車両出入口を入つてすぐのところに2階建ての社屋があり、その裏手に、重機置き場がある。敷地の外周は、高さ2メートルの壁で覆われている。車両出入口は常時解放されているが、社屋に遮られ、公道から社屋の裏手の様子をうかがうことはできない。乙社の周辺には、3階建て以上のビルが多く立ち並んでおり、Pは、乙社の隣にある3階建てのビルの所有者に許可を得て、ビデオカメラを、乙社の敷地内の重機置き場が映るように設置して撮影を開始した。乙社敷地内は、夜間も電灯がつけられており、「甲」での事件で使われたのと同型の重機がはっきりと撮影できたが、重機が動かされる様子は映っておらず、いかなる人物も映っていなかった。なお、この撮影に際し、Pはいかなる令状も取得していない。

**〔設問〕**

事例中「2」のビデオ撮影の適法性について、具体的事実を摘示しつつ論じなさい。

**《問題2 以上》  
《刑事法系問題 以上》**

**【出題意図】**

**【問題 1】**

設問 1 は正当防衛の事案を素材として、防衛の意思及び「やむを得ずにした行為」の意義を中心に、具体的事例を通じて事例処理能力を問うものである。

設問 2 は、詐欺の事案を素材として、財産的損害の理解とともに、具体的事例を通じて事例処理能力を問うものである。

**【問題 2】**

本問は、ビデオカメラでの撮影が強制の処分であるか、任意処分であるとした場合にもその限界を超えていないかにつき問うものである。